

IMF サーベイ

アジア経済見通し

アジア：見通しは一段と明るいものの、脆弱な世界経済により高いリスクに直面

IMF サーベイ・オンライン

2012年4月21日



活気に溢れる中国・北京の夜市。中国などアジア新興国は今後も世界で最も急速な成長を遂げるようになる（写真: John Hicks/Corbis）

- 今年、アジアの経済活動は勢いを増す見通し
- 安定したインフレ無き成長を支える柔軟な政策が不可欠
- 中国、消費喚起が主な課題

国際通貨基金（IMF）のアジア太平洋局長は、アジアの経済活動について、昨年の鈍化の後 2012 年になり回復しているものの、同地域の見通しは、脆弱な世界経済のためにリスクに直面していると述べた。

IMF・世界銀行の春季会合でアヌープ・シン局長は、今年のアジア経済の成長率は、2011 年からほぼ横ばいの 6%となるものの、その後次第に回復し 2013 年には約 6.5%に達するとの見通しを示した。

しかし、世界経済が脆弱な状態にあり、ユーロ圏の債務危機、エネルギー価格の急騰を引き起こしかねないリスク、さらに資本フローのボラティリティなど、同地域は引き続き課題を抱えている。

シン局長は「経済と政策の堅牢なファンダメンタルズが、ユーロ圏からの波及的影響の緩和に寄与したが、先進国・地域向け輸出の更なる急激な落ち込みと資本の流出が、直接大きな影響をおよぼすのみならず、ドミノ式に内需に深刻な影響をもたらす可能性がある」と述べた。

アジアの巨大な国々が、回復を牽引

ここ数ヶ月、アジア新興国・地域は、中国とインドに牽引され世界で最も急速な成長を見せている。

中国は、より均衡の取れた成長を目指すとともに政府がソフトランディング（軟着陸）を図ることから、2012年の成長率は約 8.25%へ鈍化すると見られる。今年後半および 2013 年に勢いを増すと見られ、2013 年の成長率は 8.75%となるだろう。

アジアのインフレは、食料と国際商品価格の下落も背景に、2012年に約3.5%まで穏やかに沈静化すると予測される。

シン局長は「インフレは多くの国で沈静化の傾向にあるものの、一部の国では、依然として、具体的あるいは暗黙の目標圏内の近傍もしくは目標圏より高い状態にある」として、「景気過熱圧力が再び高まる可能性もあり、十分に注意が必要だ」と述べた。

柔軟な政策対応が必要

シン局長は、外部環境からの成長リスクとインフレ圧力を調整しながら、安定したインフレ無き成長のための支援を適切に調節することが喫緊の課題だと述べた。

同局長は「政策担当者は、景気過熱圧力が表面化した場合、方向性を転換し一段と引き締めを行なうための措置をとる準備がなければならない」と述べるとともに、リスクバランスは国により異なると付け加えた。

また、財政健全化策についても、循環的変動調整後の赤字と債務が巨額な国ではより速いペースで行うなど、各国の状況に従い調整されるべきだと指摘した。

より持続的な再調整に向けて

さらにシン局長は、アジアの対外黒字が最近縮小したことを歓迎したが、アジア全体で国内の成長源を強化しかつ維持するため、取り組みをさらに継続する必要があると述べた。これは「外生ショックリスクに対する最善の保険だ」と同氏は説明した。

中国については「経済の持続的リバランスに不可欠だと我々が考える、GDPに対する消費の割合の上昇を示す公式な統計はない」と指摘した。

しかし、同氏は、家計所得と消費の拡大を図る政策が、同国の第12次五カ年計画のなかで大きな位置を占めており、さらに政府がその達成に強くコミットしていることに勇気付けられたと述べた。